

■ゾーニング計画・第三期（構想）

【4国際化】
現学生寮の敷地を研究所および職員住宅用地として確保し、新領域施設の建設に対応。

【4国際化】
コンサートホール・法隆寺金堂壁画写真展示館を芸術センターと位置づける。キャンパス正面に配置し、大学の顔づくり。各施設は国際レベルの教育に対応できるものを目指す。

■音楽学部棟を建築

【5環境】
一ノ池や東の丘（森）への景観を意識した施設配置。光・風・雨・緑などの自然の恵みをいかにキャンパスづくり。

【1機能】
音楽学部は、楽器の運搬を考慮して、楽室並に隣接して各施設を集約。

【1機能】
音楽学部には、カラズ張りのレッスン室を設け、自らを高めお互いに刺激しあえる場所づくり。

【2生活】
「音楽の庭」は学生・先生との対話がはずむ憩いの場。

【3連携】
「集いの庭」を中心にキャンパス奥部まで人を招き入れる構成。

【4国際化】
美術館・芸術情報センターを芸術センターと位置づける。キャンパス正面附近に配置し、入学の顔づくり。

■芸術情報センターを建築

【2生活】
「集いの庭」を軸に、各学部の共用ゾーンや学生会館などからそれぞれの視線が交わり、お互いの活動が見える計画。

【3連携】
各所に駐車場を確保し、訪れる人の利便性を考慮した計画。

【2生活】
施設群を森・緑が取り囲み、敷地全体にわたって広げる景観を継承。

【3連携】
散策の小径は、地域の人をも導くキャンパス内の主動線として整備し、回遊を促す。

【2生活】
「美術の庭」は学生・先生との対話がはずむ憩いの場。

■美術共通棟を新築

【3連携】
各所に駐車場を確保し、訪れる人の利便性を考慮した計画。

【1機能】
美術学部には、オープンアトリエ（各専攻が持つギャラリーやプレゼンの場）を設け、自らを高めお互いを刺激しあえる場所づくり。

■陶磁棟を改築

【1機能】
美術学部は、各専攻の交流と創作の場である半屋外の「工房回廊」と多目的スタジオとしての機能を持つ「大工房」を持ち、大工房を各専攻が取り囲む機能的な配置。

【1機能】
工房群は各専攻からアクセスしやすい位置に配置。

【1機能】
構内サービス動線をキャンパス周縁部に配置し、各施設への資機材の搬入を考慮した動線計画。

